

小さな群れ

2025年11月
2025年10月31日発行
主任司祭 ナルチゾ・カヴァッツォラ

ホームページ <https://caterina.sakura.ne.jp>



11月は、教会の伝統の中で“死者の月”と呼ばれています。しかし、むしろ“終末の月”といった方がいいのかもしれない。

1日は諸聖人の祭日、2日は死者の日、どちらも教会の交わりの中で一生を終えた人びとすべてが記念され、キリストとの交わりの中で彼らとともに祈ります。この交わりは聖体祭儀でいつも記憶されるものですが、今月は特別に彼らとの交わりの中で祈ります。

使徒信条を唱える時「聖徒の交わり」を信じます、と（ヨハネの手紙第一 1章 1～4節）「聖徒の交わり」の意味。

現在では、わたしたちプロテスタントの教会もカトリックも「聖徒の交わり」といいます。しかし、カトリック教会では、かつて、「聖徒の交わり」と訳していました。カトリックでは、教会に属する人々を三つに分類していました。

- ① この地上にある戦う教会。罪に対し、欲に対し、悪に対して戦う教会です。
- ② 煉獄の苦しむ教会。神によって天国に入る資格があると裁かれた「聖人」たちで、天国に入る前に煉獄で魂をきよめる必要があり、煉獄で苦しんでいます。
- ③ 天にいる凱旋（勝利）の教会です。この三つの教会の聖徒たちの間にある交わりを「聖徒の交わり」と呼ぶのです。すでに天にある聖人たちの功德、功績、すなわち、聖母の功德や、聖人たちの功德、そして、イエス様の功德が、この三つの教会の間に流通して、苦しみの教会も、戦う教会も、その交わり、功德の流通によって利益を受けるという考え方です。

王であるキリストの主日（23日）の2週間くらい前から、神の国の終末的特徴が強くなってきます。そのため、「終末主日」とも呼ばれています。このテーマは、待降節の前半部（12月16日まで）に持ち越されていきます。この日には、砂川と美唄と両方の教会では、マンフレード・フリデリッヒ神父様（砂川）と佐藤宝倉神父様（美唄）の導道元で、信徒の黙想会が行われます。典礼暦年の終わりを過ごす11月は、この時期にふさわしい終末的性格にあった書物が読まれます。福音書も終末に関する説教は全部この時期に読まれます。



全教会員、いやすべての人びとと心をひとつにして、「マラ・ナタ 主よ、来てください」と祈る日々といたしましょう。30日からは、待降節、新しい典礼周期（A年）が始まります。一緒に新しい年を過ごしてまいりましょう。「参考：Laudate」

砂川教会 お知らせ

砂川市東5条南3丁目3-1 TEL 0125-52-4617 FAX 0125-52-4618

11月の主な典礼・ミサ時刻

日	曜	典礼暦	担当
2	日	年間第31主日 死者の日 当教会出身聖職者・修道者のために祈る日 P.4 平和を願う	9:00 ミサ 先読み：多田 第1：本田 第2：野呂 答唱詩篇：間野・安藤 オルガン：
9	日	年間第32主日 司祭と召し出しを求めるために祈る日	9:00 ミサ 先読み：高塚 第1：間野 第2：三上朋 答唱詩篇：三上夫妻 オルガン：能村
16	日	年間第33主日 病者と洗礼志願者のために祈る日	9:00 ミサ 先読み：多田 第1：安藤 第2：久保 答唱詩篇：多田・木下 オルガン：能村
23	日	年間第34主日 王であるキリスト 教会から離れた信者のための祈る日	9:00 ミサ 先読み：高塚 第1：西川 第2：野呂 答唱詩篇：三上夫妻 オルガン：能村
30	日	待降節第1主日 死者のために祈る日 P.18 キリストを待ち望む	9:00 ミサ 先読み：高塚 第1：本田 第2：安藤 答唱詩篇：間野・安藤 オルガン：木下
◆平日のミサ 月曜日～金曜日 6:00 土曜日 10:00			

◆今月の霊名記念日の方・・・おめでとうございます（敬称略）			
8	日	スコートウス	山谷神父様
17	日	聖エリザベト（ハンガリー）	岡本樹理・高塚紀子・納富京子
22	日	聖セシリアおとめ	木村知栄子・佐藤江里子

◆お知らせ

- ・11/23(日) マンフレード神父様を迎えて黙想会
多数参加してください
- ・毎週水曜日 10:00～ 聖書に親しむ会を実施しています。
- ・世界難民移動者の日 献金 13,400 円

◆幼稚園関連

- 1日(土) 作品展
- 7日(金) 自由保育参観
- 13日(木) 七五三祝福式
- 19日(水) 地震避難訓練
- 26日(水) 誕生会

砂川 花当番	
1日(土)	高塚
8日(土)	多比良
15日(土)	西川
22日(土)	安藤





美唄教会 2025 年 11月 主日ミサ・平日のミサ予定

美唄市東2条南3丁目2-10 TEL&FAX 0126-63-2434

美唄教会 小さな群れ
通巻No.342
2025 年 11 月
2025 年 10 月 31 日発行

・主日ミサ 朝の祈り ; 死者のための祈る

日	曜	ミ サ		各種勉強会	会議・その他事項
		主日・祭日	時 間		
1	土	諸聖人			
2	日	死者の日	午前 11 : 00		
7	金		午前 10 : 30	聖書に親しむ(ミサ後)	
9	日	ラテラン教会の献堂	午前 11 : 00		ミサ後 運営委員会
14	金		午前 10 : 30	聖書に親しむ(ミサ後)	
16	日	年間第33主日	午前 11 : 00		
19	水				ロザリオの祈り 聖堂にて午後5:30~
21	金		午前 10 : 30		
23	日	王であるキリスト	午前9:30	黙想会	世界青年の日
28	金		午前 10 : 30	聖書に親しむ(ミサ後)	
30	日	待降節第1主日	午前 11 : 00		

《 平日のミサ 》 金曜日のみ 午前 10 : 30 7・14・21・28日です
《 聖書に親しむ 》 平日のミサ後、旧約聖書に親しんでみませんか。

霊名の祝日（敬省略）			清掃当番
17日 エリザベト	加賀 秀子 菅野 瞳 船野 美津子		<第1週> 大城
			<第2週> 村田
			<第3週> 中村
			<第4週> 小川(知)
22日 セシリア	中村 信子		花当番
			船野

【お知らせ】

- 11月は死者の月です。ミサのご依頼は、神父様へお願いします。
- 毎月第3水曜日の「聖堂でのロザリオの祈り」ですが、12月～翌年3月まではお休みになります。今年度は11月19日(水)が最後です。
- 幼稚園の予定 11日(火) 七五三祝福式・参観日
25日(火) 誕生会（聖堂使用）

黒い聖母

滝川教会の聖堂の右側の壁に、黒いマリア様のご像の入っている額があります。両手を左右に聞かれて、苦しいときでも、悲しいときでも、嬉しいときでも、何時でもおいで、苦しみは慰めてあげます、悲しみは聴いてあげますよ、喜びは褒めてあげますと待っておられるようです。



これは、昔々、もう 90 年も前、滝川がまだ屯田時代の寒い冬の朝、或る農家の雪の畑の中でおきました。その頃は日露戦争が終わり世情は不安定の時でした。フランスから宣教師としてこられて、旭川から滝川地方に布教されていたウッド神父様がその農家の青年に洗礼を授けられたのです。

この時代はキリスト教はまだ異端で、その青年は父親を激怒させ、息子は勘当されてしまいました。その後、年が経って父親は高齢になり、しぶしぶ息子と和解して同居することになりました。そしてどうにか落ち着いた生活が続くかにみえました。ところが頑固な父親にくらべ、優しく真面目な息子夫妻に好意をもっていた母親が、今度は受洗を希望するようになり、そのことを父親に洩らしました。

宣教の最後の目的は、「異教や無神論のきづなで、がんじがらめにされている靈魂を、キリストのために奪いとることだ」と、ある人が言ったが、そこに反対や迫害が起きるのは当然のことである。息子はカトリックに改宗したことについて、いたくその人の父親を激昂させた。

その理由は、自分が仏教に確信を持っていたためではなかったが、ただ息子が先祖伝来の仏教を捨てて、キリスト教に改宗したことが氣にくわなかったのです。

彼は、さんざんに息子を罵倒したのち、刀を抜いて「お前が、ヤソをやめなければ殺してやる！」と脅迫したのだった。幸いにして息子を殺すようなことはしなかったが、息子とその家族を、自分の家から追い出してしまったのです。

それから数年後、この頑固な老人は一軒の家と農機具一式を買ったが、老齢のため、最早一人で耕作できなくなっていたので、追い出した息子と家族を呼び寄せることにした。息子は、その機会をつかまえて「カトリックの信仰を許すなら受けてもよい」という条件を出し、その条件を認めさせた上で家に帰った。

ところがその後、弟家族と老母までが、カトリックの勉強をはじめたのです。このことで、老いた父親は再び激昂し、すっかり精神錯乱に陥り、十字架をはじめ、聖像・聖画等、カトリックに関係のあるものは、みな片っぱしから打ち壊し、破り捨てた。その上、息子夫婦と子供たちを再び家から追い出してしまった。

家を出る数日前、息子の妻が何気なく窓から外を見ると、雪の中に聖母像の一端があらわれていた。彼女は喜びに心はずませながら、祖父に見つからないよう、そっと掘り出して行李の底にかくしておいた。



ウッド神父 (1874~1936)

その後、この頑固な爺さんも教理を学び、老妻と共に洗礼を受けた。それから1年もたたないうちに、この爺さんは永眠したが、病床で寝たきりになったとき、口ぐせのように、「ああ、わしのような者をキリスト信者にしていただいて、もったいない」と、言っていたという。ロザリオを唱えるときには起こしてもらい、無理にでも正座して祈った。こうして、カトリック信者として立派な死を遂げたのです。

なお、この一族からは、今は故人となった児玉三男神父をはじめ、修道士一人、シスター二人が出ており、”叩きつぶされた聖母像”は、滝川教会の宝物として、大切に保存されている。